

学習計画表								
9	8	7	6	5	4	3	2	1
時	内容							
1	2	3	4	5	6	7	8	9
『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。
『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。	『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。

単元のめあて

筆者のものの見方をとらえながら『鳥獣戯画』を読み、読み取ったことを生かして名画の解説文を書こう。

教材文の『鳥獣戯画』の絵を拡大して提示します。

導入として提示する絵を提示します。

名画のよさを伝える解説文を書こう

- 【題名】 その題名にした理由
- 「○○○」↓ ・○○○のように見えたから。
  - 「□□□」↓ ・□□□が伝わるから。
- 絵を見た気付き
- かえるがおどっているように見える。
  - すもうをしている様子。
  - 墨でかかれていて、色が無い。
  - 周りに建て物がないので広い場所だと分かる。

【筆者の書き方】

- 書き出しの工夫
- 絵のほめ方の工夫
- 文末表現の工夫

※児童の発言に合わせて板書します。

【1/9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む①  
本時のねらい  
絵に関心をもたせ、学習の見通しをもたせる。

1 教師が提示した絵を見て、題名を考える。

- 一枚の絵を提示し、児童に気付きを出させ、絵から想像したことを基に題名を付けることを確認する。
- 絵の題名を考えさせ、グループごとに題名とその理由を交流させる。
- ※ 題名は付箋に書かせ、絵に貼ると交流しやすくなります。交流させることで、見方や感じ方の違いが分かり、そのおもしろさに気付かせることができます。
- ※ 児童に提示する絵は、図工の鑑賞用のものを利用したり、地域の図書館から借りたりして準備をします。

2 単元の学習課題を設定する。

- 自分の選んだ名画の解説文を書き、校内の児童に紹介することを提案し、意欲を喚起する。
- 単元のめあてを提示する。

3 教材文を読み、学習計画を立てる。

- 『鳥獣戯画』の絵を見て、気付きを出し合った後、教材文を読ませる。
- 教材文を読んで、筆者の書き方で上手だと思う表現の工夫を出し合う。
  - ・書きだしが面白い・絵のほめ方が上手・分かりやすい・読者に話し掛けてくるような文末 など
- 「学習の手引き」を参考にし、学級全体で話し合いながら学習計画を立てる。
- ※ どんな見方をして、どんなことを書けばよいのか分からないことを確認し、鳥獣戯画の解説をしている教材文を読み取っていく必要感をもたせます。
- ※ 計画を立てていくときには、児童の出した気付きに合わせた形でまとめていくと、学習の目的や見通しをもたせやすくなります。


評価 絵に関心をもち、これからの学習の見通しをもっている。 (関)

4 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。

- 筆者の絵の見方を学ぶために、教材文を読み取っていくことを知らせる。

めあて

絵と文を照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取ろう。

全体		部分		全体	全体	部分		場所
	① 絵全体の様子、くもり感や色づいて、右から左へと時間が流れている。	② 絵全体の様子、くもり感や色づいて、右から左へと時間が流れている。	③ もんどりついでに紙が、たぬの、背中や手足の線。	④ 絵全体の様子、くもり感や色づいて、右から左へと時間が流れている。	⑤ 絵全体の様子、くもり感や色づいて、右から左へと時間が流れている。	⑥ 絵全体の様子、くもり感や色づいて、右から左へと時間が流れている。	⑦ 絵全体の様子、くもり感や色づいて、右から左へと時間が流れている。	形式段落と教材本文の書き出し
⑧ この絵がつけられたのは、今からさっと八百五十年ほど前…								筆者が着目している所
⑨ 十二世紀ごろ大抵、まるく「鳥獣戯画」のよさな…								評価を表す言葉

○筆者のものの見方

- ・部分をくわしく見たり、絵全体を見たりする。
- ・線や形に着目している。など

※児童の発言に合わせて板書します。

【2 / 9 時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む②  
 本時のねらい ※ A3版に拡大してご利用ください。

絵と文を照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取らせる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ 学習計画表を提示し、筆者の絵の見方について学ぶことを確認させる。

2 ワークシートを用いて、段落ごとに色分けをし、絵と文を線でつなぐ。

○ 色鉛筆を準備させ、段落ごとに書き出しの文章を色鉛筆を使って囲ませる。文章に合う絵の部分と同じ色で囲み、線で結ばせる。

※ この活動をさせることで、絵のどの部分について書かれたことなのかを視覚的に捉えることができるようになります。また、全体を見たり部分を見たりしていることも気付かせることができます。

3 取り上げた部分の何に着目しているのかをワークシートに整理する。

○ 全員が活動に取り組めるように、第一、二段落を使って見付け方を確認させる。

○ ワークシートの「筆者が着目している所」に記入させる。

○ 整理できない児童には、教材文にサイドラインを引いてから書き出すとよいことを助言する。

○ 何に着目しているのか、整理したことをグループで交流させる。

※ 交流させることで、見付けられなかったところを補うことができます。

4 筆者のものの見方で気付いたことをワークシートに書く。

○ どういう絵の見方をすれば解説文が書けるのかを考えながら書かせる。

・部分をくわしく見たり、絵全体を見たりするとよい

など

評価 絵と文を照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取っている。(読ウ)

5 本時の振り返りをして次時の学習を確認する。

○ 次時は、どんな言葉を使って『鳥獣戯画』のよさを伝えているのを読み取ることを知らせる。

めあて

筆者がどんな「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使って絵を評価しているのか読み取るう。

※教材文（教科書132ページから138ページ）を  
拡大コピーしたものを提示します。

- ・ 実にすばらしい
- ・ のびのびとした
- ・ 正確で
- ・ とびきりモダン

など

言葉をほめる絵

- ・ くちがいない
- ・ まるでくのような
- ・ くとしか思えない

など

想像したり感じたり  
したことを伝える  
言葉

◇解説文に使いたい「読み取ったことや感じたことを表す表現」


※児童がカードに書いたものを  
掲示します。

【3 / 9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む②  
本時のねらい

筆者がどんな言葉で絵を評価しているのかを整理させ、筆者の表現の工夫を読み取らせる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ 学習計画表を提示し、筆者がどんな言葉で絵を評価しているかを学ぶことで、解説文を書くときに役に立つことを確認させる。

2 筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」をワークシートに整理する。

○ 第一、二段落をモデルにし、学級全体で「読み取ったことや感じたことを表す表現」の具体例を挙げて確認をさせる。（のびのびと、くとしか思えない、など）

○ 第三段落から第九段落までに筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を段落ごとに分けて整理をさせ、ワークシートの「読み取ったことや感じたことを表す表現」の欄に記入させる。

3 「読み取ったことや感じたことを表す表現」を出し合い、筆者の表現について話し合う。

○ グループで「読み取ったことや感じたことを表す表現」を出し合い、交流させた後、学級全体で交流させる。

※ 交流のときは、言葉を出し合うだけでなく、別の言葉に置き換えさせたり、自分だったらどんな言葉で評価するかなどを話し合わせたりすると、より深い読み取りができます。

評価 筆者が使っている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を整理し、  
表現の工夫を読み取っている。（読む）

4 筆者が使っている読み取ったことや感じたことを表す表現の中で自分が使いたい言葉を選ぶ。

○ 自分の解説文に使いたい言葉を選ばせ、カードに書かせる。  
※ カードは一覧にして掲示しておく、その後の学習に生かすことができます。

5 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。

○ 次時は、筆者の表現や構成の工夫を読み取ることを知らせる。

めあて

筆者の表現や構成の工夫を読み取ろう。

書きだし

「はっけよい、  
のこった。」

効果

いきなり絵の中に入ったような感じ。  
絵の中のものが、今、動いているよう  
な感じ。

文末表現

「……返し技。」  
「……野ウサギ。」

効果

歯切れがよい  
本当に動いているような感じ

「……いる。」  
「……する。」

今、そこで見ているような感じ

「……してごらん。」  
「……しただろう。」  
「……わかるね。」

読み手を引きこむような感じ  
話しかけるような感じ

構成  
(絵の出し方)

効果

部分  
← 部分  
← 全体

つながっている  
絵を分けて出す  
ことで読み手に  
時間の経過を意  
識させる。

その他の工夫

「まるで」のよう  
↓イメージが広がる。  
「〜ちがいない」  
「〜としか思えない」  
↓想像や考えを伝える。

【4 / 9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む③  
本時のねらい

筆者の表現や構成の工夫を、既習の説明文と比較しながら読み取らせる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ どんな「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使って評価したのか、前時での学習を振り返らせた後、他にも筆者が工夫していることはないか投げ掛け、めあてにつなげる。

2 表現の工夫として、「書き出し」「文末表現」に着目させ、どのような効果があるか考え、ワークシートに書く。

○ 書き出しや文末表現には、どんな工夫があるのか、既習教材の「生きものはつながらの中に」の表現と比較して考えさせる。

※ 「生きものはつながらの中に」の文章を提示して比較させると想起しやすくなります。

・ 「返し技」「野ウサギ。」のように体言止めになっている。↓歯切れがよい文章。  
・ 今、見ているように書いている。↓絵の中のものが、今、動いているように感じる。  
・ 話し掛けるように書いている。↓おもしろい。楽しい。どんどん読み進められる。

3 構成の工夫(絵の提示の仕方の工夫)とその効果について考え、ワークシートに書く。  
○ 本来はつながっている絵をページごとに分けて提示した理由と、後半では、再度つないで提示した理由を考えさせ、全体で話し合う。

4 その他の筆者の工夫を探して、気付いたことをワークシートに書く。また、そのような表現や構成をすることで、文章全体にどんな効果があるのかということも考える。

・ 「まるで」のようだ ↓分かりやすく、イメージが広がる  
・ 「〜ちがいない」「〜としか思えない」 ↓想像や考えを伝える など

※ 『鳥獣戯画』を読むの教材文が、全体的に読み手を絵や文章に引きつける内容になっっていることに気付かせます。

評価 筆者の表現や構成の工夫を読み取っている。 (読む)

文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えている。 (言イ(オ))

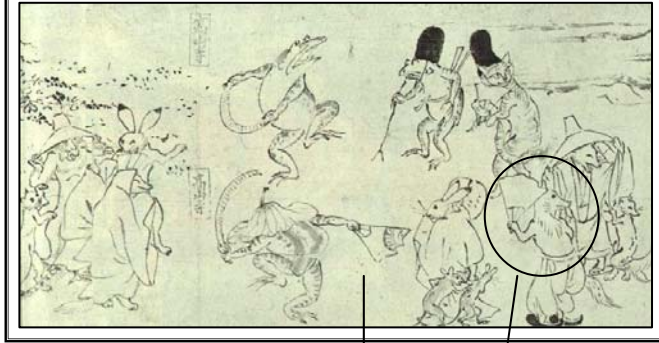
5 本時の振り返りをして次時の学習を確認する。

○ 次時は、自分で絵を評価することを知らせる。

めあて

絵を見て読み取ったことをもとにして、自分の言葉で絵を評価しよう。

※教材文とは違う場面の『鳥獣戯画』の絵から 1 場面を選び、拡大して提示します。



② 絵のすばらしいところ

- ・ 線が生き生きとしている
- ・ 色のこい、うすいがよく出ている
- ・ 動物たちの表情がちがっておもしろい

※児童の発言に合わせて板書します。

- ① 絵から想像したり感じたりしたこと
  - 部分を見て
  - ・ おどりのしんぱんをしているみたい
  - ・ ( )
  - 全体を見て
  - ・ 秋の祭りのようだ
  - ・ ( )
- ※児童の発言に合わせて板書します。

【5 / 9 時間目 指導略案】 使用するワークシート「『鳥獣戯画』を読む」④  
本時のねらい

絵を見て読み取ったことを基にして、自分の言葉で絵を評価し、考えを広げたり深めたりさせる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ 学習計画表を提示し、本時の学習のめあてを確認させる。

2 これまで学習してきた筆者のものの見方や「読み取ったことや感じたことを表す表現」を想起する。

○ 評価するときの観点として次の二点を示す。

① 絵から想像したり感じたりしたこと

② 絵のすばらしいところを評価すること

※ 三時目で作成しておいた「読み取ったことや感じたことを表す表現」の一覧表を提示し、具体的な言葉を想起させるとよいでしょう。

3 一枚の絵を見て、自分なりの言葉を使って絵を評価し、話し合う。

○ 教材文の『鳥獣戯画』とは別の場面の絵を提示し、全体を見せたり部分を見せたりしてイメージをつかませる。

○ 個人で評価をさせ、付箋に書き込みをさせ、ワークシートに貼らせる。

○ 少人数で絵の見方や評価の言葉を交流させる。

○ 全体で交流させ、「読み取ったことや感じたことを表す表現」を用いているか確認させる。

4 話し合ったことを基に自分の評価に付け加えをする。

○ 話し合いの後、評価したものが一目で分かるように色の違う付箋に書かせるようにする。

評価 絵を見て読み取ったことを基にして、自分の考えを広げたり深めたりして  
いる。(読才)

5 様々な場面が使われている「読み取ったことや感じたことを表す表現」を見付ける。

○ 児童が興味をもてるような本の帯やコンサートのちらし、映画の案内などの文章を紹介し、それらの「読み取ったことや感じたことを表す表現」を見付けさせる。

※ 他にも詩や俳句の鑑賞などにも「読み取ったことや感じたことを表す表現」が使われていることを紹介すると、更に実感させることができます。

6 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。

○ 次時からは、自分の選んだ名画を使って解説文を書くことを学習計画表で確認させる。

めあて

自分が選んだ絵を見て、読み取ったことを整理しよう。

教科書 P 142, 143 の『風神雷神図』を拡大して提示します。

どこに注目

- ・身に付けているもの
- ・場所
- ・形
- ・色
- ・線
- ・ポーズ
- ・位置

教師のモデル文（『風神雷神図』の解説文）を拡大印刷して提示するか、一部を書き抜いて板書します。

どんなことを

- ・分からない、不思議と感ずるところ
- ・絵を書いた人の思い
- ・絵のすぐれているところ
- ・（「読み取ったことや感じたこと」を表す表現）を使って
- ・全体を見て感じたこと
- ・部分を見て感じたこと

解説文を書くときに使いたい「読み取ったことや感じたことを表す表現」

※第三時で児童がカードに書いたものを掲示します。

【6 / 9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む⑤  
本時のねらい

解説文を書く絵を見て、読み取ったことを整理させる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ 解説文を書く絵はあらかじめ準備しておき、児童に選ばせる。

※ 解説文を書く絵は、図工の鑑賞用のものを利用したり、地域の図書館から借りたりして準備をします。（二時目の導入で使用した絵を利用してよいでしょう。）

○ 『風神雷神図』の絵を拡大して提示し、児童に教科書144ページと145ページの（書きだしの例）（記述例）を読んで聞かせ、解説文の具体的なイメージをもたせるようにする。

※ 児童が書く解説文のモデルとして、『風神雷神図』の解説文例もあります。必要に応じてご利用ください。

2 「何が」「どのように」描かれているのか、絵からどんなことを感じるのかを付箋に書き、絵の中に貼る。

○ 教科書の143ページに挙げられている視点とワークシートの下部に挙げている言葉を参考にして絵を見るように促す。

○ 「何が」「どのように」描かれているか、どんなことを感じるのかを付箋に書かせ、絵の中に貼らせる。

○ グループで話し合い、友達の見方も参考にして付箋の付け加えをさせる。

※ 「全体」や「部分」という見方も意識させて、できるだけたくさん付箋を貼らせるようにします。

3 付箋に書いたことを基にして、ワークシートに整理する。

○ ワークシートの左側の表に付箋を分類しながら貼り替えをさせる。

※ 分類が終わったら、書き出しに使えるところや、書く順序なども考えさせるようにすると、次時の学習をスムーズに進めることができます。

4 本時の振り返りをして、次時の確認をする。

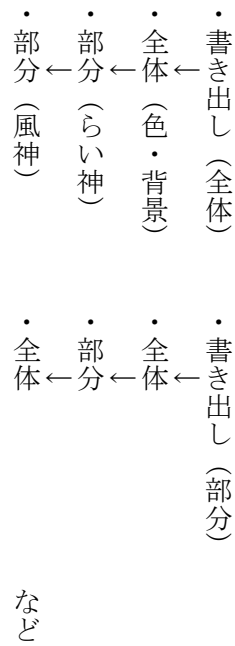
○ 次時は、本時のワークシートを基にして、解説文を書くことを知らせる。

（書ア）

めあて

構成や表現を工夫して、解説文を書こう。

◎構成の例



◎書き出しの例

※教科書144ページの〈書き出しの例〉を拡大コピーして貼ります。

※教師のモデル文（『風神雷神図』の解説文）を拡大印刷して提示するか、一部を書き抜いて板書します。  
（六時目で使用したものと  
同じもの）

【見る場所や見る方法を表す言葉】

- ・と見ると、
- ・に目を向けると、
- ・として見てみると
- ・だけに注目すると
- ・を見てみよう。
- ・としてごらん。
- ・もつと見てもみよう。

【7・8／9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む⑥  
本時のねらい 構成や表現を工夫して、解説文を書かせる。

【7時目】

- 1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。
  - 学習計画表を提示し、これまでの読みを生かして解説文を書くことを確認する。
  - 「全校のみんなに絵を紹介する」という目的意識と相手意識を再確認する。

2 前時のワークシートを見ながら、解説文の構成を考える。

- 部分的に見て感じたことと全体を見て感じたことのバランスを考えて、書く順序を決めさせる。
- 教科書144ページと145ページの〈書きだしの例〉〈記述例〉を板書で示し、参考にさせる。

3 表現の工夫をしながら解説文の下書きをする。

- 教科書の例文や拡大したワークシートを使って筆者の工夫を想起させる。
- ※ 『風神雷神図』の解説文のモデル文も活用ください。
- 三百〜四百字程度で書くことを確認させる。
- ※ 書き終えたら読み返して、自分が工夫したところには、あらかじめ赤線を引かせておくと、後で工夫が足りないところを自覚させやすく、推敲に生かすことができます。

【8時目】

1 下書きの解説文を推敲する。

- ペアで交換して読み合い、誤字脱字や分かりにくいところをチェックさせる。
- 赤線を引いた部分（工夫点）が少ない場合は、学習したことを参考に書き加えをさせる。

評価 構成や表現を工夫して、解説文を書いている。 （書ウ）  
文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えている。 （言イ（オ））

2 推敲した下書きを基に、清書をする。

- 校内に掲示することを意識して清書させる。

3 本時の振り返りをして次時の学習を確認する。

- 次時は、グループで解説文を読み合い、交流することを知らせる。



めあて

解説文を読み合い、感想を交流しよう。

◎ 解説文を読み合うときの視点

- ・ 絵のどんな部分に着目しているか。
- ・ どんな言葉を用いて評価しているか。
- ・ どんな表現の工夫をしているか。
- ・ どういう書き方で書きだしを工夫しているか。

共通点

そうい点

【9 / 9 時間目 指導略案】 使用するワークシート「鳥獣戯画」を読む⑦  
本時のねらい

解説文を読み合わせ、絵の見方や絵についての考え方を交流させる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

- 筆者の絵の見方、評価の仕方、表現や構成の工夫を確認させる。
- 自分の解説文の読み直しをさせる。

2 解説文を読んで感想を交流する。

- 同じ名画を選んだ児童同士をグループにし、解説文を読んで感想を交流させる。
  - 読んで気付いたことを付箋に書かせ、友達の解説文に貼らせる。
  - グループで交流した後、全体で交流する時間を設ける。
- ※ 交流するときには次のような観点を示すと、話し合いをスムーズに進めることができます。

- ・ 絵のどんな部分に着目しているか。
- ・ どんな言葉で評価しているか。
- ・ どんな表現の工夫をしているか。
- ・ どういう書き方で書きだしを工夫しているか。

3 グループ以外の友達と解説文を読み合い、感想を交流する。

- 別の絵を選んだ児童と交流させることでさらに見方や表現の違いを実感させる。

4 交流しての気づきをまとめる。

- 友達の絵の見方や表現の工夫で気付いたことを書かせるようにする。

評価 解説文の書き表し方や内容を進んで伝え合おうとしている。

(関)

5 単元の振り返りをする。

- 単元としての学習の振り返りをワークシートに記入させ、学習のまとめとする。



名画のよさを伝える解説文を書こう ①

6年

めあて

学習計画を立て、学習の見通しをもとう。

一 筆者が書いた文章の中で上手だと思う書き方を見つけよう。

二 名画のよさを伝える解説文を書くために、どんな学習をすればよいか、学習計画を立てよう。

時	過程	内容	学 習 活 動
1	教材文と出会う		
2	読 む	『鳥獣戯画』を読む 「読んで筆者 のものの見方を学 ぶ。」	
3			
4	書 く	「この絵、わたし はこう見る」で、 読みの学習で学ん だことを生かして 解説文を書く。	
5			
6			
7			
8			
9	書いた解説文を交流する。		

☆ 今日の学習をふりかえりましょう。

◎よくできた

○できた

△もう少し

学習の見通しをもつことができましたか。

◎ ○ △

名画のよさを伝える解説文を書こう ①

6年

めあて

学習計画を立て、学習の見通しをもとう。

一 筆者が書いた文章の中で上手だと思う書き方を見つけよう。

二 名画のよさを伝える解説文を書くために、どんな学習をすればよいか、学習計画を立てよう。

記入例										
時	過程	内容								
1	教材文と出会う	単元のめあてを知り、学習計画を立てる。								
2		絵と文を照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取る。								
3		筆者がどんな言葉を使って絵を評価しているかを読み取る。								
4		筆者の表現や構成の工夫を読み取る。								
5		絵を見て読み取ったことをもとに、自分の言葉で絵を評価する。								
6		自分で選んだ絵を見て、読み取ったことを整理する。								
7		構成や表現を工夫して、解説文を書く。								
8	書く	構成や表現を工夫して、解説文を書く。								
9	書いた解説文を交流する。	解説文を読み合い、絵の見方や考え方を交流する。								

読む

「『鳥獣戯画』を読む」を読んで筆者のものの見方を学ぶ。

書く

「この絵、わたしはこう見る」で、読みの学習で学んだことを生かして解説文を書く。

☆ 今日の学習をふりかえりましょう。

◎よくできた

○できた

△もう少し




学習の見通しをもつことができましたか。

◎ ○ △

めあて

絵と文章を照らし合わせながら、筆者のものの見方を読み取り、評価が表れている言葉を整理しよう。

一 『鳥獣戯画』を読み、「筆者のものの見方を大まかにとらえよう。」

絵		書いている場所		筆者が着目している部分	評価を表す言葉
全体	部分	全体	部分		
	<p>①はつけよい、のこった。</p> <p>②墨<sup>すみ</sup>一色、抑揚<sup>よくよう</sup>のある緑と濃淡<sup>のみ</sup>だけ、</p>	<p>③この絵は、『鳥獣人物戯画』甲巻<sup>こうまき</sup>…</p>	<p>④どうだい、蛙<sup>かむろ</sup>が兔<sup>うさぎ</sup>を投げ飛ばしたように…</p> <p>⑤もう少しくわしく絵を見てみよう。</p> <p>⑥もんどりうって転がった兔<sup>うさぎ</sup>の、背中や右足の線<sup>せん</sup>。</p>	<p>形式段落と教材文の書き出し</p>	<p>評価を表す言葉</p>
	<p>⑦絵巻の絵は、くり広げるにつれて、右から左へと時間が…</p> <p>⑧この絵巻がつけられたのは、今からざっと八百五十年ほど前…</p> <p>⑨十二世紀という大昔に、まるで漫画<sup>まんが</sup>やアニメのような…</p>	<p>『鳥獣戯画』</p>		<p>のびのびとした 見事な まるでくみたい ただの空想ではない 正確に しっかりと くっと思えない</p>	
					

二 筆者のものの見方で気づいたことを書きましょう。

☆ 今日の学習をふりかえりましょう。 ◎よくできた ○できた △もう少し

2/9時目 絵と文を照らし合わせて、筆者のものの見方を読み取ることができましたか。 ◎ ○ △

3/9時目 「評価を表す言葉」を整理して、表現の工夫を読み取ることができましたか。 ◎ ○ △

名画のよみかきととくを解説文を書こう ③

6年

めあて

筆者の表現や構成の工夫を読み取ろう。

一 筆者の表現の工夫を見つけよう。

書き出し

効果



「生き物はつながりの中に」で学習した表現の工夫を思い出しましょう。

文末表現

効果

Blank box for text analysis.

Blank box for text analysis.

二 筆者の構成の工夫を見つけよう。

構成（絵の出し方）

効果



筆者は、絵の出し方を工夫すること、文章構成の工夫を同時に行っているね。

三 その他の工夫を見つけよう。

Blank box for text analysis.

Blank box for text analysis.

四 これらの工夫は、文章全体にどんな効果がありますか。自分なりに考えて書きましよう。

Large blank box for overall reflection.

☆ 今日の学習をふりかえりましよう。

◎よくできた

○できた

△もう少し

筆者の表現や構成の工夫を読み取ることができましたか。

◎ ○ △

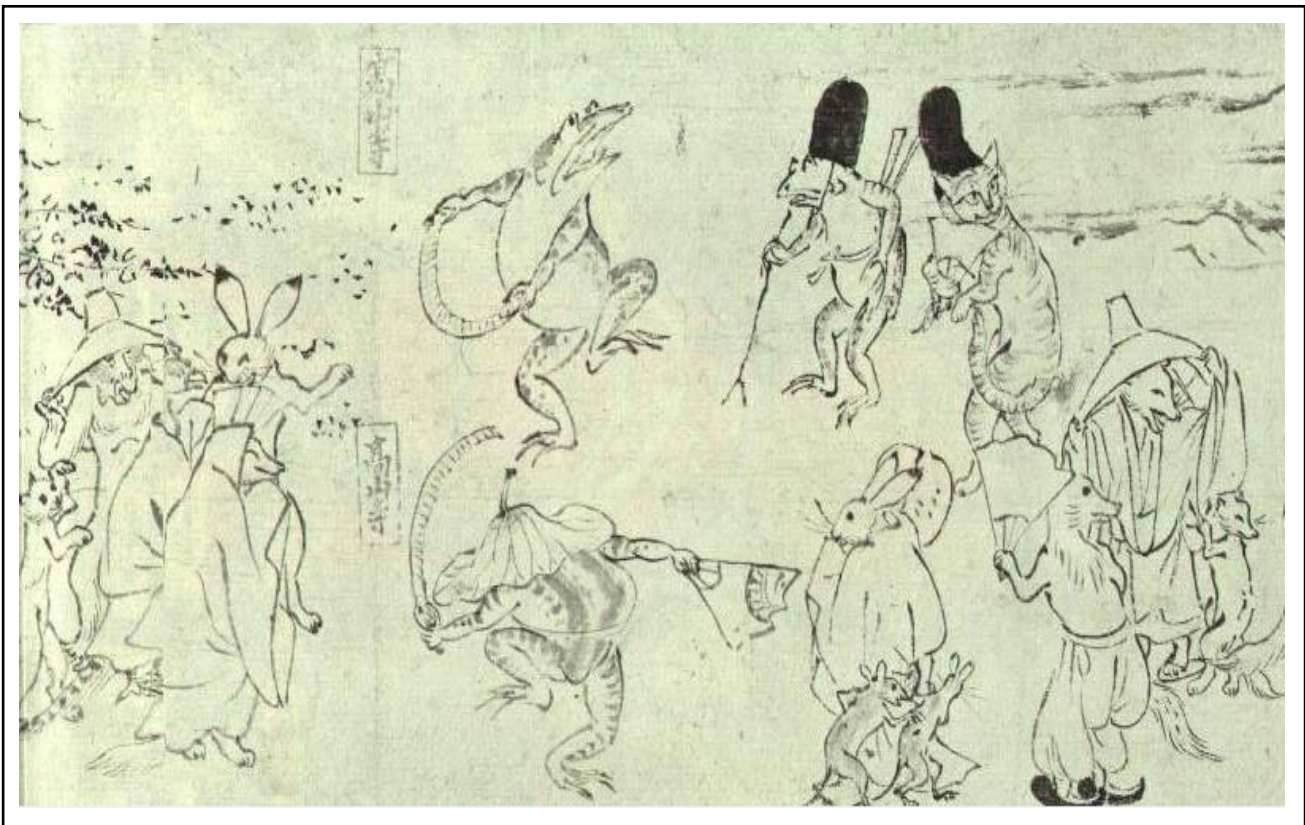
名画のよみかきえの解説文を書こう ④

めあて

6年

絵を見て読み取ったことをもとにして、自分の言葉で絵を評価しよう。

一 自分なりに絵を評価して、付せんに書いてはろう。



☆ 今日の学習をふりかえりましょう。

◎ よくできた

○ できた

△ もう少し

絵を見て読み取ったことをもとにして、自分の考えを広げたり深めたりできましたか。

◎ ○ △

めあて

自分が選んだ絵を見て、読み取ったことを整理しよう。

一 絵の全体を見たり部分を見たりして気づいたことを付せんに書いて絵のまわりにはりましょう。付せんに書くときには、次のようなことに気をつけましょう。

どこに注目するか

- ・身に付けているもの
- ・場所
- ・形や色や線
- ・ポーズ
- ・位置



どんなことを

- ・分からない、不思議だと感じること
- ・絵をかいた人の思い
- ・絵のすぐれているところ（「読み取ったこと」や感じたことを表す表現）を使って）
- ・全体を見て感じたこと
- ・部分を見て感じたこと
- ・絵をかいた人の思い



二 解説文に書く付せんを選び、表に整理しましょう。また、書きだしにしたい部分を選んで◎をつけましょう。

注目した部分	想像したこと	感じたこと	不思議に思ったこと	など

☆ 今日の学習をふりかえりましょう。

◎よくできた

○できた

△もう少し

絵を見て読み取ったことを整理することができましたか。

◎ ○ △





名画のよみかき伝える解説文を書こう ⑦

6年

めあて

解説文を読み合い、感想を交流しよう。

一 友達の前説文を読み、次の視点で共通点やさうい点（ちがうところ）を見つけよう。

- ・ 絵のどんな部分に着目しているか。
- ・ どんな言葉を用いて評価しているか。
- ・ どんな表現の工夫をしているか。
- ・ どういう書き方で書きだしを工夫しているか。



共通点	さうい点

二 交流して気づいたことや学んだことを書きましよう。

Large empty rounded rectangular box for writing reflections.

☆ 今日の学習をふりかえりましよう。

◎ よくできた

○ できた

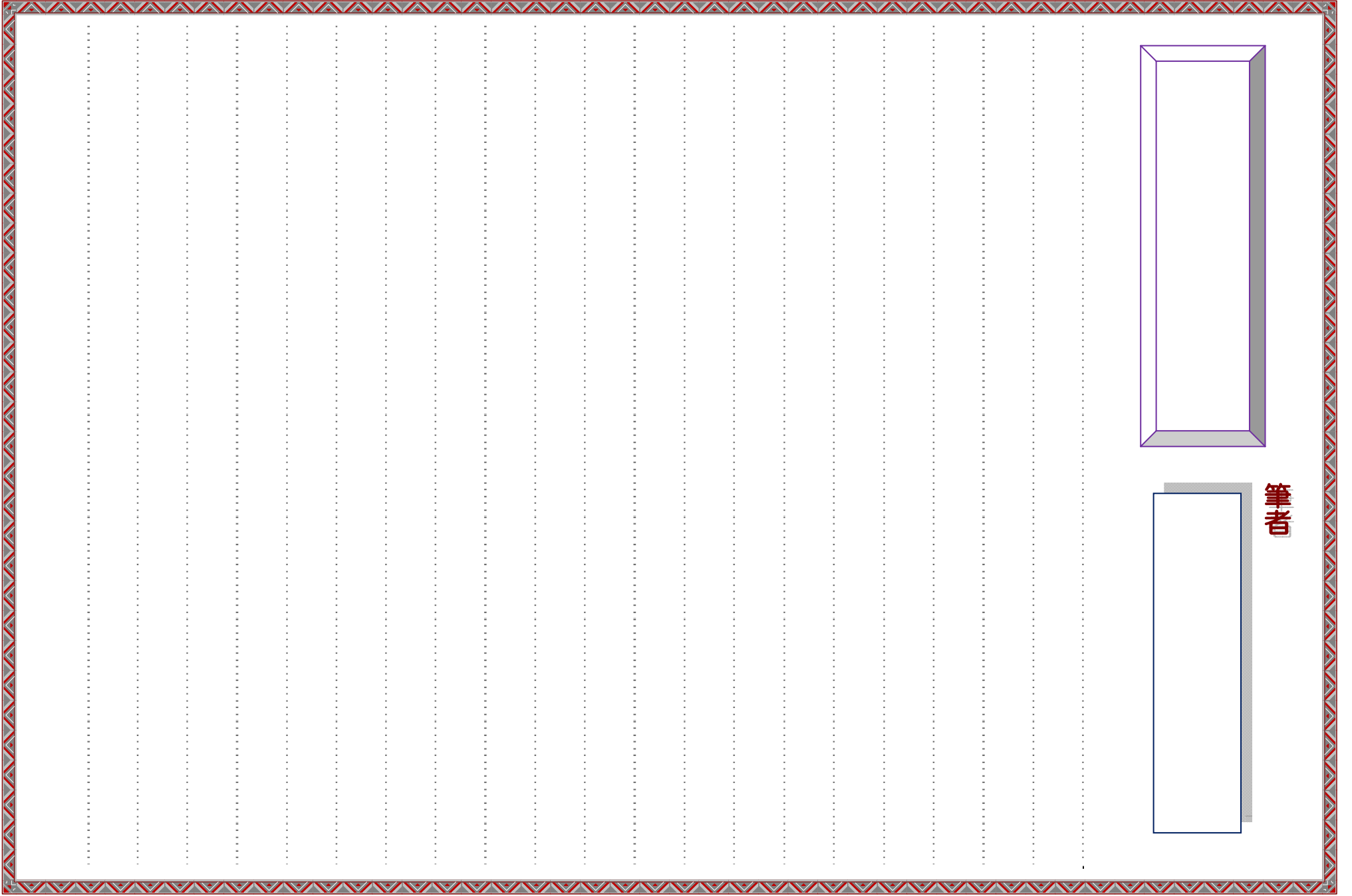
△ もう少し

解説文の書き表し方や内容を進んで伝え合うことができましたか。

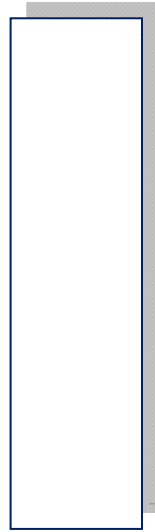
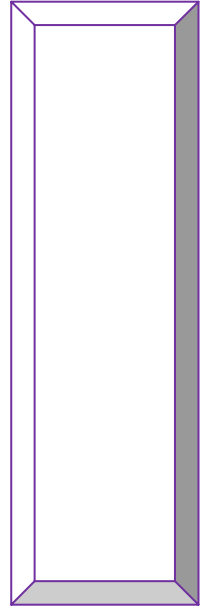
◎ ○ △

が	ろ	大		情	大	向	が		け	色	力		か	た	二	れ	は	を	
わ	い	き	そ	か	き	か	盛	左	さ	の	強	こ	か	の	人	だ	日	試	左
か	こ	く	れ	ら	な	っ	り	の	れ	背	い	の	か	は	で	だ	本	し	に
る	と	見	を	も	雷	つ	上	雷	て	景	筆	絵	か	、	暴	「	、	た	い
だ	に	開	見	分	を	て	が	神	い	に	さ	は	か	風	れ	お	く	の	る
ろ	な	いた	て	か	起	、	っ	の	て	真	ば	、	か	神	た	い	て	は	、
う	っ	た	駆	る	こ	そ	て	方	、	っ	き	俵	か	。	ら	お	う	は	、
。	て	目	け	。	そ	う	い	を	そ	い	で	屋	か	二	下	い	ず	、	雷
足	き	。	付		と	ぶ	て	見	れ	確	二	宗	か	人	界	、	う	を	起
に	た	笑	け		張	し	確	て	ぞ	か	人	達	か	が	は	待	ず	を	起
動	と	っ	て		り	を	に	み	れ	に	の	の	か	暴	大	ち	し	こ	す
き	わ	て	き		切	突	強	よ	に	神	神	作	か	れ	嵐	な	て	す	雷
が	く	い	い		っ	き	そ	う	存	は	を	品	か	た	だ	。	い	神	。
あ	わ	る	る		て	出	う	。	在	、	描	『	か	ら	」	。	る	。	自
っ	く	口	の		い	し	だ	手	感	白	い	風	か	、	驅	「	。	分	の
て	し	元	は		る	て	。	も	が	と	て	神	か	ど	け	わ	。	の	腕
、	い	。	、		の	と	下	足	あ	緑	い	雷	か	う	つ	し	。	の	
真	る	お	風		が	び	界	も	る	に	る	神	か	け	け	ひ	。	雷	
っ	の	も	神		表	き	に	筋	。	色	。	凶	か	て	て	と	。	雷	
黒		し				り		肉		分	金	』		の	き	暴			





Handwriting practice area with 18 vertical columns. Each column contains a solid vertical line on the left and a dotted vertical line on the right, creating a narrow writing space.



筆者